

令和7年度第1回 生駒市環境審議会

【議事要旨】

日時:令和7年11月10日(月) 10:00~12:00

場所:生駒市役所4階 403・404会議室

1. 配布資料

- 資料1 生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)
- 資料2 生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 改定スケジュール
- (参考資料) ごみに関する市民アンケート調査結果

2. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	奈良県立大学 教授	水谷 知生
副会長	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 主任研究員	河瀬 玲奈
委員	生駒市議会	中嶋 宏明
委員	生駒市自治会連合会 副会長	藤堂 宏子
委員	生駒商工会議所 副会頭	上武 敏一
委員	生駒市農業委員会 副会長	稲葉 健三
委員	エコネットいこま 代表	矢田 千鶴子
委員	一般社団法人 市民エネルギー生駒 代表理事	楠 正志
委員	奈良県地球温暖化防止活動推進センター センター長	谷 茂則
委員	公募市民	岩下 仁子
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市地域活力創生部次長 生駒市 SDGs・公民連携推進課長 生駒市環境保全課長 生駒市環境保全課 課長補佐 生駒市 SDGs・公民連携推進課 主幹 生駒市環境保全課事業係長 生駒市 SDGs・公民連携推進課 SDGs推進係	川島 健司 谷 英也 井川 啓一郎 河島 嘉明 木戸 勇 掛樋 佐紀子 柳田 裕規 藤村 佳生

3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 案件	
(1)生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の改定について	
事務局	資料 1、2 について説明。
水谷会長	既存の一般廃棄物処理基本計画の施策をレビューしつつ、アンケート結果を踏まえて、施策の見直しを行うとのこと。前回計画からの変更点もわかりやすく、写真付きでの説明が増えて、施策の中身が伝わりやすくなっていると感じる。
矢田委員	市民の中には、せっかくごみを分別しても一緒に処理されているという誤った認識を持たれていることがある。行政がきちんと周知し、世間の誤解を防いでもらいたい。 また、家庭系ごみ排出量の削減目標は、計画の見直しにあたって、もう少し高く設定し直してもいいのでは。現状維持では市民の行動変容を促せないと危惧する。 計画に記載されている、まちのえきの取り組みには自身も取り組んでいるところ。自治会以外も巻き込みながら取り組んでいる事例もあるので、そういった広がりにも期待している。
水谷会長	家庭系ごみ排出量の削減目標値の定め方について説明いただきたい。
事務局	家庭系についても議論はあったものの、コロナ禍による在宅勤務増加や人口減少、物価高騰に伴う消費活動の縮小など、直近の動向は目まぐるしく変化している。こうした社会情勢の変化を踏まえ、現在の削減目標を継続することと判断した。ただ、取り組みについては、様々なものを増やしていきたいと考えている。
水谷会長	年度ごとには排出量はばらつきもみられる。 施策の中身については拡充するとのことでもあるので、評価するのは数字だけではないといとも感じる。
楠委員	EVごみ収集車の取り組みはいいことだと思う。生駒市は脱炭素先行地域に選定されている全国でも数少ない自治体。再エネ電源拡充に取り組んでいるが、市民の目にもよく留まるごみ収集車の車体を活用し、市民に向けてエネルギーの地産地消の実例としてPR していければと思う。
事務局	今は1台ではあるが、現在の運用実績を踏まえ、今後の導入などを検討される。
楠委員	地域コミュニティを活用した取り組みが進んでいると思うが、まちのえきは現在、どれだけの件数、こういった成果が挙げられるのか確認したい。 また、令和6年度以降は市内のバイオマス発電所の稼働に伴い、ごみ削減につながっている。エネルギーの地産地消という成果にもつながっていると思うので、こういった成果を市民にも周知してもらいたい。
事務局	現在16自治会20拠点まで広がっている。毎年度拡大はしているものの、やはり担い手不足は課題感としてある。しかし、工夫の余地はあっていると感じている。

藤堂委員	<p>集団資源回収は減少傾向。市民アンケートで「出し方がわからない」という意見もある。計画上では呼びかけを行うとしているが、その効果は期待できるのか。</p> <p>集団資源回収を維持するには人手が不可欠。困難なエリアがあるとも伺っているが、資源化できるのであれば、何か方法を模索したい。まちのえきで回収している事例もある。</p>
岩下委員	<p>分別アプリを活用しても、出し方がわからないごみがたくさんある。缶と一緒にフライパンを出しているところや、おもちゃをプラごみで出しているところも見かける。まちのえきで資源回収を行っている場合、スタッフが教えてくれるのでわかりやすい。</p> <p>分別方法が分かりやすくなれば、資源回収もハードルが低くなると思う。</p>
矢田委員	<p>コロナ以前はエコネットで環境施設見学会を実施し、市民の啓発に努めてきた。参加者もごみ出しルールを誤認識していることが多い。</p> <p>また、生駒市では近隣自治体のごみを受け入れている。自治体ごとに収集ルールが異なると思うが、その点でトラブルはないのか。</p>
事務局	<p>ごみ受け入れを行う斑鳩町、平群町も資源化に取り組んでいる。生駒市は各自治体の燃えるごみだけを受け入れている。資源ごみの質への影響はない。</p>
水谷会長	<p>集団資源の回収量減少の要因は、回収しにくさなのか？</p>
事務局	<p>集団資源回収は自治会、PTA等の協力で成り立っている。実施団体は現在、147団体。過去5年間実施団体数に変化はない。そのなかで回収量が減っている背景には、新聞、雑誌などの紙媒体離れが背景にあると考えられる。活動団体の負担を減らせるように工夫しながら、取り組みを進めていきたいと思っている。</p>
岩下委員	<p>主婦にとって、汚れているごみをどう出すかはよく迷うポイント。どの程度洗えば資源ごみに出して問題ないのか。子どもたちに、小さい間にそういうことを教えて、当たり前のこととして身に着けてあげられたらいい。</p>
事務局	<p>分別については、衛生社と連携して、5Rについて学べる出前授業を市内全小学校で実施している。汚れたごみについては、汚れたままで構わないので燃えるごみで出してくださいと案内している。</p>
矢田委員	<p>汚れているものを洗うと水が汚れてしまう。資源化も大切だが、水も貴重な資源。</p>
河瀬会長副会長	<p>上下水道も環境負荷が大きく、これについては正解のないテーマ。簡単に汚れを取れる程度のものであれば手間をかけてもいいのではないかという感覚。</p>
矢田委員	<p>施設見学会ではそういうところも教えてもらえる。衛生社も関西メタルワークも受け入れてくれる。</p>
水谷会長	<p>現場を見る機会があればためになると思う。</p>
中嶋委員	<p>計画案の基本方針①にも掲げている「指定ごみ袋のサイズダウンセレクト」についてだが、どのように市民に理解を得ていこうと考えているのか。</p>
矢田委員	<p>ごみ袋のサイズダウンは購入費用が安くなるのでメリット。</p>
中嶋委員	<p>ごみの捨て方は家庭によってさまざまだと思う。そういった背景の中で、サイズダウンを</p>

	どう進めていくのか。
水谷会長	サイズの選択肢が増えるので、ご家庭に応じて使いやすいサイズの利用を進めるということだろう。
事務局	インセンティブとして、金額面もある。できる範囲で少しでも小さくしてもらいたい。
中嶋委員	リユース・リペアの促進も具体的施策に掲げているが、具体的にはどういった団体などがいるのか。
事務局	従来のリレーセンターでの取り組みや、過去にはメルカリ、セカンドストリートとの連携なども実施してきた。他にも連携可能な事業者などと協力し、そういった取り組みを進めていきたい。
河瀬会長副会長	12ページの図表2-8及び図表2-9「燃えるごみの中の資源化可能・発生抑制可能物の割合」は旧計画と整理方法が変わっている。「手つかず食品」は今回計画では「堆肥化可能物」に振り分けられるのではないかと。よろしく願いいたします。
事務局	確認する。
河瀬会長副会長	28ページの図表2-31「ごみ減量等の取り組みへの関心度(市民アンケート結果)」について、「市民アンケート結果」という記載は「事業者アンケート結果」の誤りではないか。また、この集計結果からは、現状の市が発信する情報が行き届いていないことがわかる。今後の施策で情報提供を頑張ってもらいたいと感じた。
事務局	事業系ごみに関するマニュアル作成は、その必要性を感じていたところで、アンケート項目にも含めているが、事業者の事業範囲は多岐にわたるのでなかなか実現できていないところ。ただ、アンケートでもその必要性が分かった。 何が必要か、こういった形の媒体が適しているのか考えていきたい。
藤堂委員	集団資源回収に関する説明の中で、紙媒体離れに伴って紙の資源化が減っていると伺ったがそのことは計画文中に記載が無い。市民の誤解を招いてしまう恐れもあるので、その旨記載してもらいたい。
水谷会長	様々なご意見ありがとうございました。修正すべきところについては事務局にご対応をお願いしたい。
(2)「その他」について	
事務局	次回の環境審議会の会議予定についてのご案内。12月16日10時から市役所401、402会議室での開催を予定。案件としては、「令和7年度版環境白書の内容について」「本市の脱炭素先行地域の進捗についてのご報告」の予定。開催案内については後日お送りさせていただきます。
4. 閉 会	

以 上